

第 2 章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

(参考) 主要品目の生産量の推移

(平成 25 年～令和 6 年)

利用者のために

1 食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の収集

(1)調査の対象

食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の把握については、下表のとおり、各部門の品目に関して標本調査及び既存調査資料の収集により行っている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存調査資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査資料を収集し、活用したものである。

部 門	本調査の対象品目 (標本調査)	既存調査資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産加工品	はっ酵乳・乳酸菌飲料類	食肉加工品、食肉缶・びん詰、牛乳・乳製品
2 水産加工品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産加工品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	野菜缶・びん詰、果実缶・びん詰、ジャム類、 トマト加工品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん類、マカロニ類 プレミックス、パン粉、でん粉	
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	みそ、しょうゆ等	マヨネーズ、ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウーロン茶、麦茶、 その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯	調理冷凍食品、冷凍菓子、調理缶・びん詰、 レトルトパウチ
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、焼酎、ビール、 果実酒、スピリッツ、リキュール、雑酒
12 その他の食品		包装もち、植物油粕

(2)標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 550 社
調査時期	令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月
調査方法	郵送・FAX・メール・電話による聞き取り
回答企業数	292 社（回答率約 53.1%）

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、「令和 3 年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらましを行い、部門及び全体の推計を行う(ふくらましウェイト方式)。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、「令和 3 年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、「令和 3 年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にそれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである(ラスパイレス算式)。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は令和 2 年であり、基準数量は対象品目ごとの令和 2 年月平均生産数量である。指数値は令和 2 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため5年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

(3) 用語の解説

①暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

②寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\begin{aligned} \text{対前年増減寄与度} &= \text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト} \\ &\div \left(\text{総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト} \right) \times 100.0 \end{aligned}$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	： ±1%未満
わずかに	： ±1～3%未満
やや	： ±3～6%未満
かなりの程度	： ±6～11%未満
かなり大きく	： ±11～16%未満
大幅に	： ±16 %以上

食品製造業 総合

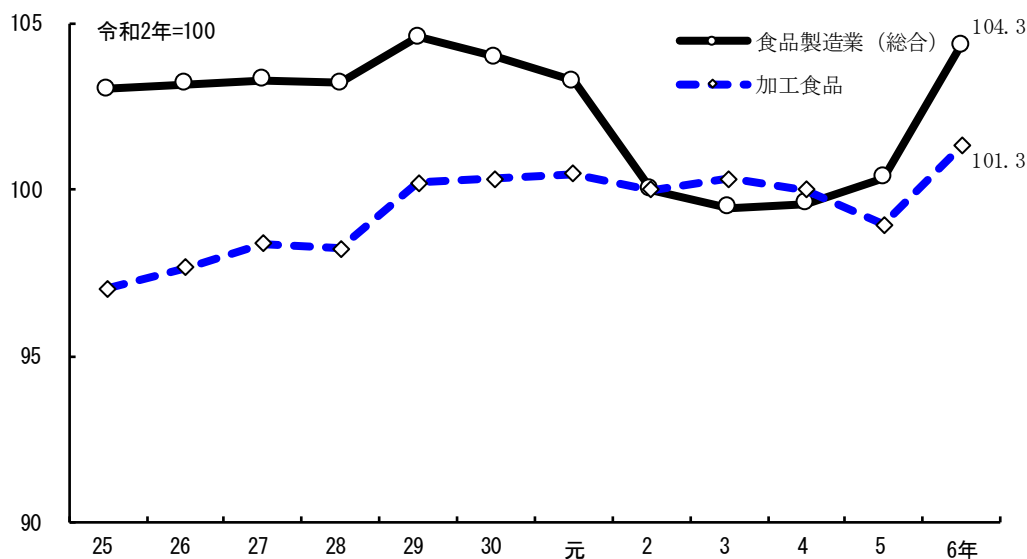
(1)生産指数

令和6年の食品製造業（総合）の生産指数は104.3で、対前年比4.0%とやや上昇

令和6年の食品製造業（総合）の生産指数（令和2年=100、暫定値）は104.3で、対前年比4.0%とやや上昇した。うち、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は101.3で、対前年比2.4%とわずかに上昇した。なお、近年の食品製造業（総合）の生産指数の推移についてみると、令和3年以降上昇傾向で推移している（図2-1）。

対前年比を部門別にみると、水産食料品及び酒類がかなり大きく上昇し、調理食品はかなりの程度上昇し、食用油・同加工品はやや上昇し、製穀粉・同加工品、調味料及び飲料はわずかに上昇した。一方、農産食料品はやや低下し、砂糖はわずかに低下した。また、畜産食料品、菓子及びその他食品は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の生産指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、畜産食料品、水産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、調味料、飲料、調理食品及び酒類はプラスに、農産食料品はマイナスであった（図2-2、表2-1）。

図2-1 食品製造業の生産指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの（以下同様）。

図 2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度

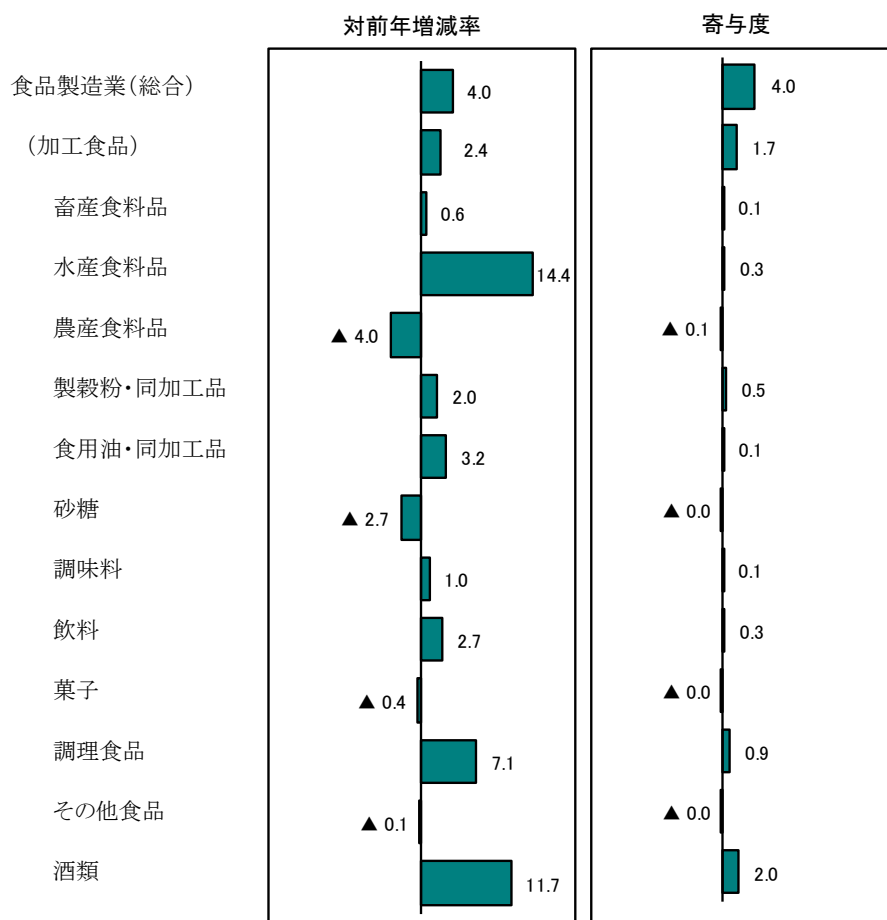


表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)					対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		令和2年	3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	99.5	99.6	100.4	104.3	▲ 0.5	0.1	0.8	4.0	4.0
(加工食品)	7,455.1	100.0	100.3	100.0	99.0	101.3	0.3	▲ 0.3	▲ 1.0	2.4	1.7
畜産食料品	1,645.8	100.0	101.2	100.7	97.6	98.1	1.2	▲ 0.4	▲ 3.1	0.6	0.1
水産食料品	226.5	100.0	100.5	98.0	86.3	98.7	0.5	▲ 2.4	▲ 12.0	14.4	0.3
農産食料品	368.2	100.0	100.7	101.1	97.8	93.8	0.7	0.3	▲ 3.3	▲ 4.0	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	2,348.5	100.0	99.3	98.5	99.0	101.0	▲ 0.7	▲ 0.8	0.6	2.0	0.5
食用油・同加工品	379.2	100.0	100.1	96.5	89.4	92.2	0.1	▲ 3.5	▲ 7.4	3.2	0.1
砂糖	15.8	100.0	101.8	104.2	102.5	99.8	1.8	2.4	▲ 1.6	▲ 2.7	▲ 0.0
調味料	783.5	100.0	101.1	98.0	99.9	100.9	1.1	▲ 3.0	1.9	1.0	0.1
飲料	990.9	100.0	96.9	97.0	97.4	100.0	▲ 3.1	0.1	0.5	2.7	0.3
菓子	440.7	100.0	100.0	97.9	95.7	95.3	0.0	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 0.4	▲ 0.0
調理食品	1,166.4	100.0	100.7	105.0	107.2	114.8	0.7	4.3	2.1	7.1	0.9
その他食品	80.4	100.0	102.4	103.7	100.5	100.3	2.4	1.3	▲ 3.2	▲ 0.1	▲ 0.0
酒類	1,553.9	100.0	96.9	99.3	108.9	121.6	▲ 3.1	2.5	9.6	11.7	2.0

(2) 出荷指数

令和6年の食品製造業（総合）の出荷指数は104.0で、対前年比3.7%とやや上昇

令和6年の食品製造業（総合）の出荷指数（令和2年=100）は104.0で、対前年比3.7%とやや上昇した。うち、加工食品の出荷指数（令和2年=100）は100.6で、対前年比2.0%とわずかに上昇した（図2-3）。

対前年比を部門別にみると、水産食料品及び酒類がかなり大きく上昇し、調理食品はかなりの程度上昇し、食用油・同加工品はやや上昇した。一方、農産食料品がかなりの程度低下し、砂糖はわずかに低下した。また、畜産食料品、製穀粉・同加工品、調味料、飲料、菓子及びその他食品は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の出荷指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、畜産食料品、水産食料品、食用油・同加工品、調理食品及び酒類はプラスに、農産食料品はマイナスであった（図2-4、表2-2）。

図2-3 食品製造業の出荷指数の推移

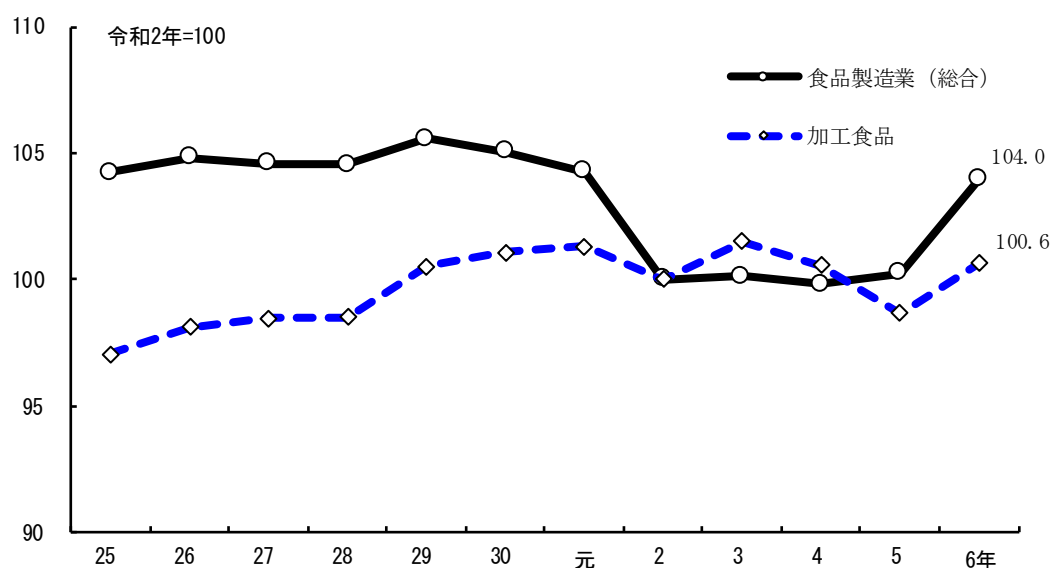


図 2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度

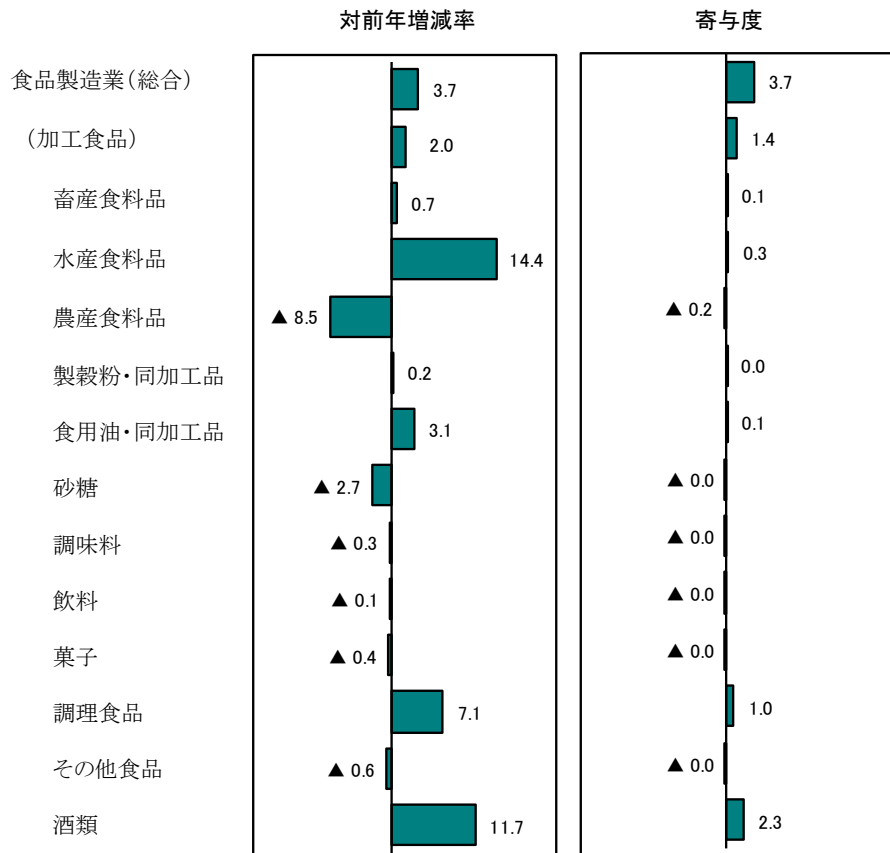


表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (令和2年)	指数（令和2年＝100）				対前年増減率（％）				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.1	99.8	100.2	104.0	0.1	▲ 0.3	0.4	3.7	3.7
(加工食品)	7,134.3	101.5	100.6	98.7	100.6	1.5	▲ 0.9	▲ 1.9	2.0	1.4
畜産食料品	1,941.3	101.4	101.0	97.6	98.3	1.4	▲ 0.4	▲ 3.3	0.7	0.1
水産食料品	267.2	100.4	97.9	86.3	98.8	0.4	▲ 2.5	▲ 11.8	14.4	0.3
農産食料品	280.3	103.2	103.1	99.9	91.4	3.2	▲ 0.1	▲ 3.1	▲ 8.5	▲ 0.2
製穀粉・同加工品	2,007.4	103.0	98.8	98.1	98.3	3.0	▲ 4.1	▲ 0.7	0.2	0.0
食用油・同加工品	447.3	100.2	96.0	89.7	92.5	0.2	▲ 4.2	▲ 6.5	3.1	0.1
砂糖	18.6	101.8	104.2	102.5	99.8	1.8	2.4	▲ 1.6	▲ 2.7	▲ 0.0
調味料	181.7	99.0	99.4	96.6	96.3	▲ 1.0	0.4	▲ 2.8	▲ 0.3	▲ 0.0
飲料	1,032.8	96.4	95.4	95.8	95.7	▲ 3.6	▲ 1.0	0.4	▲ 0.1	▲ 0.0
菓子	519.8	100.0	97.9	95.7	95.3	0.0	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 0.4	▲ 0.0
調理食品	1,375.9	100.7	105.0	107.2	114.8	0.7	4.3	2.1	7.1	1.0
その他食品	94.8	102.1	103.6	100.2	99.6	2.1	1.4	▲ 3.2	▲ 0.6	▲ 0.0
酒類	1,832.9	96.9	99.3	108.9	121.6	▲ 3.1	2.5	9.6	11.7	2.3

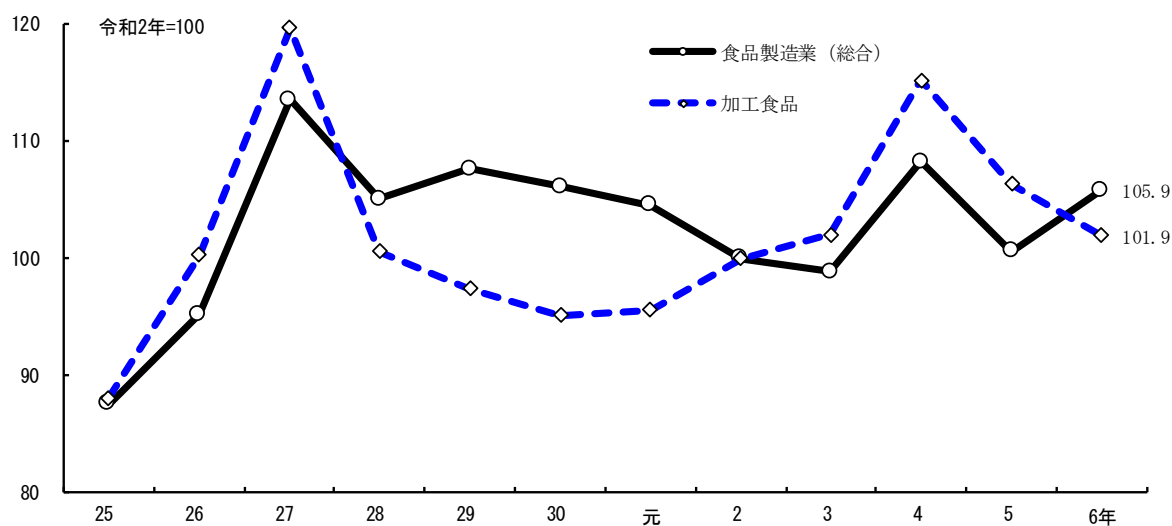
(3)在庫指数

令和6年の食品製造業（総合）の在庫指数は105.9で、対前年比5.2%とやや上昇

令和6の食品製造業（総合）の在庫指数（令和2年=100）は105.9で、対前年比5.2%とやや上昇した。うち、加工食品の在庫指数（令和2年=100）は101.9で、対前年比▲4.2とやや低下した（図2-5）。

部門別に対前年比をみると、食用油・同加工品は大幅に低下し、畜産食料品及び製穀粉・同加工品はやや低下し、水産食料品はわずかに低下した。一方、飲料が大幅に増加し、農産食料品はわずかに上昇した。また、その他食品は前年並みとなった（図2-6、表2-3）。

図2-5 食品製造業の在庫指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図 2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度

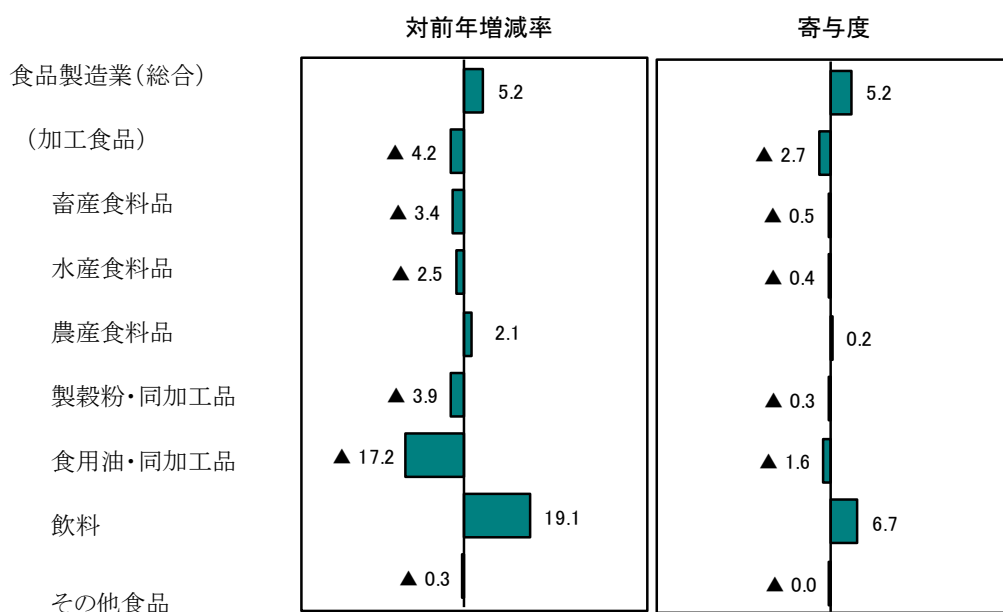


表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

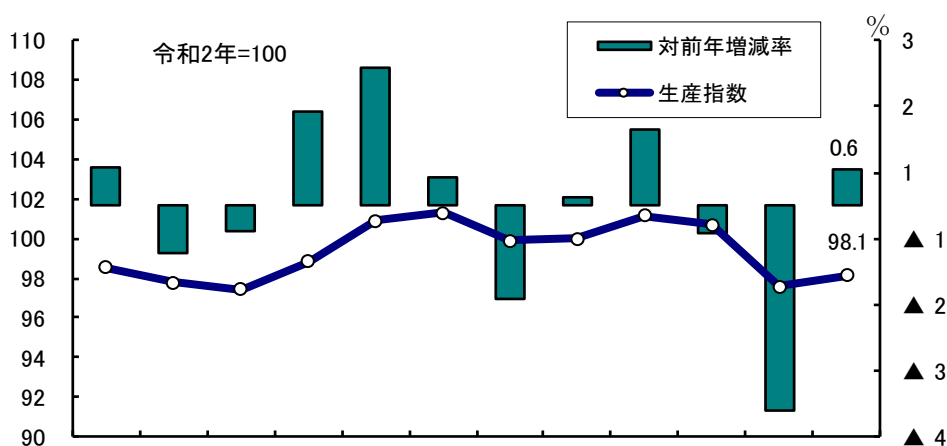
	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
食品製造業(総合)	10,000.0	98.8	108.3	100.6	105.9	▲ 1.2	9.5	▲ 7.1	5.2	5.2
(加工食品)	6,104.6	102.1	115.3	106.4	101.9	2.1	12.9	▲ 7.7	▲ 4.2	▲ 2.7
畜産食料品	1,464.5	104.4	123.6	107.1	103.5	4.4	18.4	▲ 13.3	▲ 3.4	▲ 0.5
水産食料品	1,328.0	109.1	128.0	128.5	125.3	9.1	17.4	0.4	▲ 2.5	▲ 0.4
農産食料品	1,021.6	99.7	99.7	98.0	100.1	▲ 0.3	0.0	▲ 1.7	2.1	0.2
製穀粉・同加工品	889.0	101.4	100.9	94.5	90.8	1.4	▲ 0.5	▲ 6.3	▲ 3.9	▲ 0.3
食用油・同加工品	957.5	91.5	121.1	99.1	82.0	▲ 8.5	32.3	▲ 18.2	▲ 17.2	▲ 1.6
飲料	3,895.4	93.8	97.3	90.7	108.1	▲ 6.2	3.7	▲ 6.7	19.1	6.7
その他食品	443.9	103.0	101.6	96.6	96.3	3.0	▲ 1.4	▲ 4.9	▲ 0.3	▲ 0.0

1 畜産食料品

令和6年の畜産食料品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は98.1で、対前年比0.6%と前年並みとなった。近年は横ばいから低下傾向で推移している（図2-7）。

対前年比を品目別にみると、乳製品がやや上昇した。一方、食肉缶・びん詰がかなり大きく低下し、食肉加工品及び乳飲料はやや低下した。また、飲用牛乳等及びはっ酵乳・乳酸菌飲料は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、乳製品はプラスであり、一方、食肉加工品、食肉缶・びん詰、飲用牛乳等及び乳飲料はマイナスであった（図2-8、表2-4）。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はやや低下、ハム類、ベーコン類、ソーセージ類のいずれも低下

食肉加工品の生産量は50万8千トンで、生産指数は対前年比▲3.4%とやや低下した。内訳についてみると、ハム類の生産量は9万7千トンで、生産指数は対前年比▲8.1%とかなりの程度低下し、ベーコン類については生産量が8万9千トンで、生産指数は対前年比▲3.0%とやや低下した。また、ソーセージ類についても生産量が30万2千トンで、生産指数は対前年比▲2.0%とわずかに低下した。

飲用牛乳等及びはっ酵乳・乳酸菌飲料は前年並み、乳飲料はやや低下

飲用牛乳等の生産量は344万1千klで、生産指数は対前年比▲0.7%と前年並みとなった。乳飲料は102万7千klで、生産指数は対前年比▲4.0%とやや低下した。また、はっ酵乳・乳酸菌飲料は177万7千klで、生産指数は対前年比0.2%と前年並みとなった。

乳製品類はやや上昇、バター及び脱脂粉乳はかなりの程度上昇、チーズは前年並み

乳製品類の生産量は56万6千トンで、生産指数は対前年比5.4%とやや上昇した。内訳についてみると、バターの生産量は7万2千トンで、生産指数は対前年比6.4%とかなりの程度上昇した。脱脂粉乳も生産量は15万3千トンで、生産指数が対前年比6.0%とかなりの程度上昇した。チーズの生産量は14万9千トンで、生産指数は対前年比▲0.1%と前年並みとなった。

図 2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

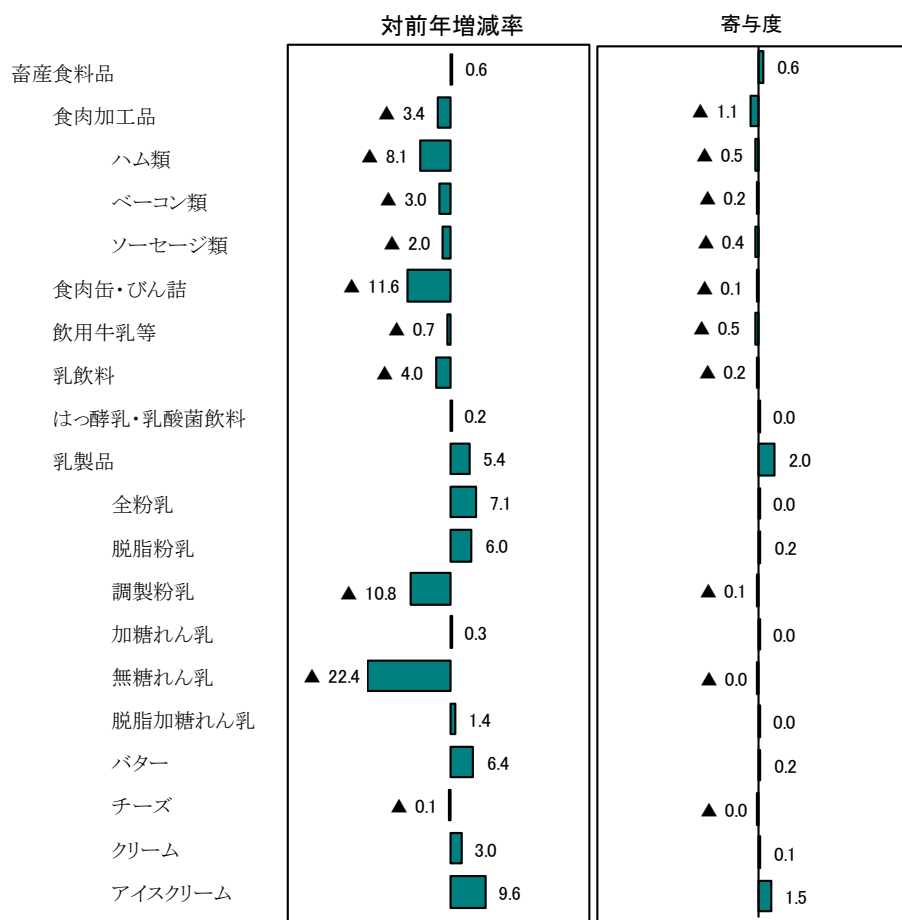


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

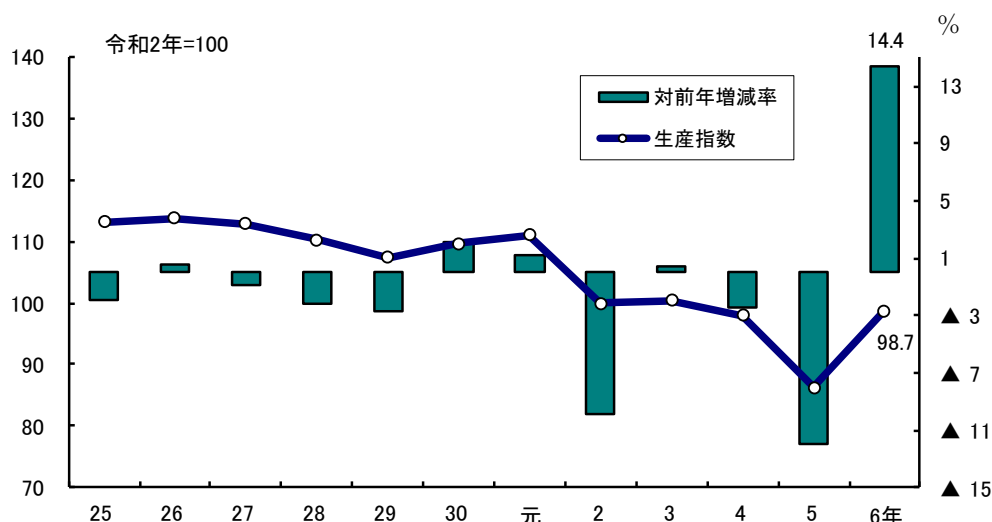
品 目	年 次 (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
畜産食料品	1,645.8	101.2	100.7	97.6	98.1	1.2	▲ 0.4	▲ 3.1	0.6	0.6
食肉加工品	540.2	99.2	97.2	95.4	92.2	▲ 0.8	▲ 2.1	▲ 1.8	▲ 3.4	▲ 1.1
ハム類	114.8	97.6	96.3	93.5	86.0	▲ 2.4	▲ 1.4	▲ 2.9	▲ 8.1	▲ 0.5
ベーコン類	100.3	99.5	97.7	93.3	90.5	▲ 0.5	▲ 1.9	▲ 4.5	▲ 3.0	▲ 0.2
ソーセージ類	325.2	99.7	97.3	96.8	94.9	▲ 0.3	▲ 2.3	▲ 0.6	▲ 2.0	▲ 0.4
食肉缶・びん詰	10.1	81.9	85.6	79.0	69.8	▲ 18.1	4.5	▲ 7.7	▲ 11.6	▲ 0.1
飲用牛乳等	311.5	100.0	99.7	97.0	96.3	0.0	▲ 0.3	▲ 2.7	▲ 0.7	▲ 0.5
乳飲料	71.4	95.0	94.3	96.5	92.6	▲ 5.0	▲ 0.7	2.3	▲ 4.0	▲ 0.2
はっ酵乳・乳酸菌飲料	115.7	98.7	97.6	98.7	99.0	▲ 1.3	▲ 1.1	1.2	0.2	0.0
乳製品	596.8	105.0	106.1	100.0	105.4	5.0	1.0	▲ 5.7	5.4	2.0
全粉乳	3.7	98.8	110.5	116.0	124.2	▲ 1.2	11.9	4.9	7.1	0.0
脱脂粉乳	57.1	110.7	113.0	103.1	109.3	10.7	2.1	▲ 8.7	6.0	0.2
調製粉乳	11.5	92.7	100.1	106.1	94.6	▲ 7.3	8.1	5.9	▲ 10.8	▲ 0.1
加糖れん乳	12.4	101.1	102.6	99.5	99.8	1.1	1.5	▲ 3.0	0.3	0.0
無糖れん乳	0.2	96.7	82.3	107.7	83.5	▲ 3.3	▲ 14.9	30.9	▲ 22.4	▲ 0.0
脱脂加糖れん乳	1.4	97.6	97.0	97.4	98.8	▲ 2.4	▲ 0.6	0.4	1.4	0.0
バター	51.3	102.5	104.9	94.1	100.2	2.5	2.4	▲ 10.3	6.4	0.2
チーズ	139.3	104.4	100.2	93.0	93.0	4.4	▲ 4.0	▲ 7.1	▲ 0.1	▲ 0.0
クリーム	71.2	108.8	109.1	106.6	109.8	8.8	0.3	▲ 2.3	3.0	0.1
アイスクリーム	248.7	104.5	107.7	102.1	111.9	4.5	3.0	▲ 5.1	9.6	1.5

2 水産食料品

令和6年の水産食料品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は98.7で、対前年比14.4%とかなり大きく上昇した。令和5年には生産が大きく落ち込んだが、6年は回復した（図2-9）。

対前年比を品目別にみると、ちくわ・かまぼこ類は大幅に上昇した。一方、水産缶・びん詰は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、ちくわかまぼこ類はプラスであった（図2-10、表2-5）。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類は大幅に上昇、水産缶・びん詰は前年並み

ちくわ・かまぼこ類の生産量は43万4千トンで、生産指数は対前年比18.7%と大幅に上昇した。一方、水産缶・びん詰の生産量は7万9千トンで、生産指数は対前年比▲0.1%と前年並みとなった。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

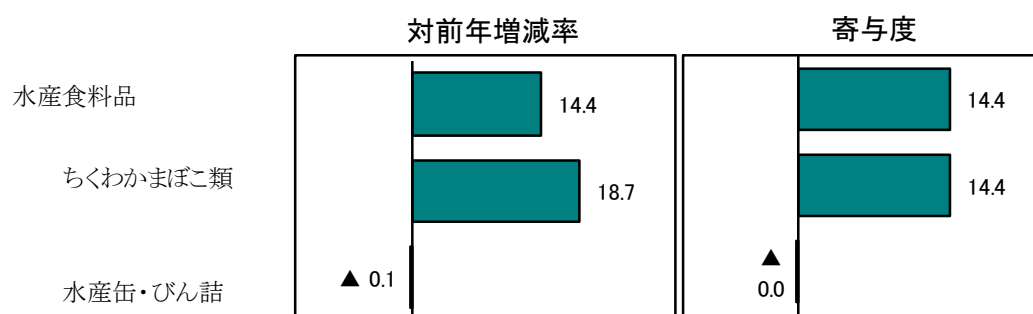


表2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

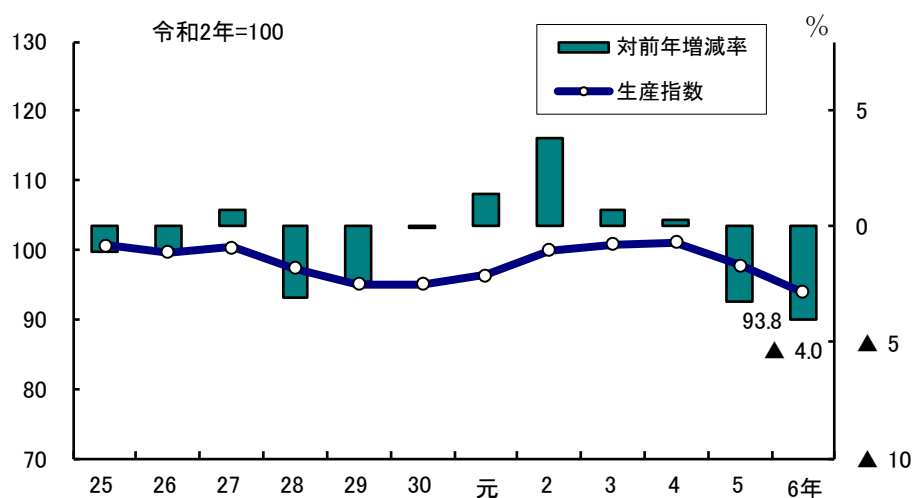
品目	年次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
水産食料品	226.5	100.5	98.0	86.3	98.7	0.5	▲2.4	▲12.0	14.4	14.4
ちくわ・かまぼこ類	169.7	102.9	100.6	89.2	105.8	2.9	▲2.3	▲11.3	18.7	14.4
水産缶・びん詰	56.8	93.1	90.5	77.8	77.7	▲6.9	▲2.9	▲14.0	▲0.1	▲0.0

3 農産食料品

令和 6 年の農産食料品の生産指数（令和 2 年=100、暫定値）は 93.8 で、対前年比▲4.0%とやや低下した。なお、近年の推移は、平成 30 年以降上昇傾向で推移していたが、令和 5 年以降低下傾向で推移している（図 2-11）。

対前年比を品目別にみると、野菜・果実漬物はかなりの程度低下した。農産缶・びん詰もかなり大きく低下し、一方、トマト加工品はやや上昇した。また、乾燥野菜は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、トマト加工品はプラスであり、一方、野菜・果実漬物及び農産缶・びん詰はマイナスであった（図 2-12、表 2-6）。

図 2-11 農産食料品の生産指数の推移



野菜・果実漬物はかなりの程度低下

野菜・果実漬物の生産量は 74 万トンで、生産指数は対前年比▲7.7%とかなりの程度低下した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は 9 万 9 千トンで、生産指数は対前年比▲6.0%とかなりの程度低下、酢漬類の生産量は 11 万 2 千トンで、生産指数は対前年比 0.4%と前年並み、浅漬類の生産量は 14 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲7.2%とかなりの程度低下し、醤油漬類も 30 万 7 千トンで、生産指数は対前年比▲8.2%とかなりの程度低下した。

農産缶・びん詰はかなり大きく低下

農産缶・びん詰の生産量は 9 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲11.8%とかなり大きく低下した。内訳についてみると、野菜缶・びん詰が 3 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲16.8%と大幅に低下した。また、果実缶・びん詰は 3 万 9 千トンで、生産指数は対前年比▲7.0%とかなりの程度低下した。ジャム類の生産量は 2 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲4.9%とやや低下した。

トマト加工品はやや上昇

トマト加工品の生産量は 9 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 4.9%とやや上昇した。トマ

トピューレの生産量は前年を下回ったものの、トマトケチャップ及びその他トマトの生産量が前年を上回ったため全体でもやや上昇した。

図 2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

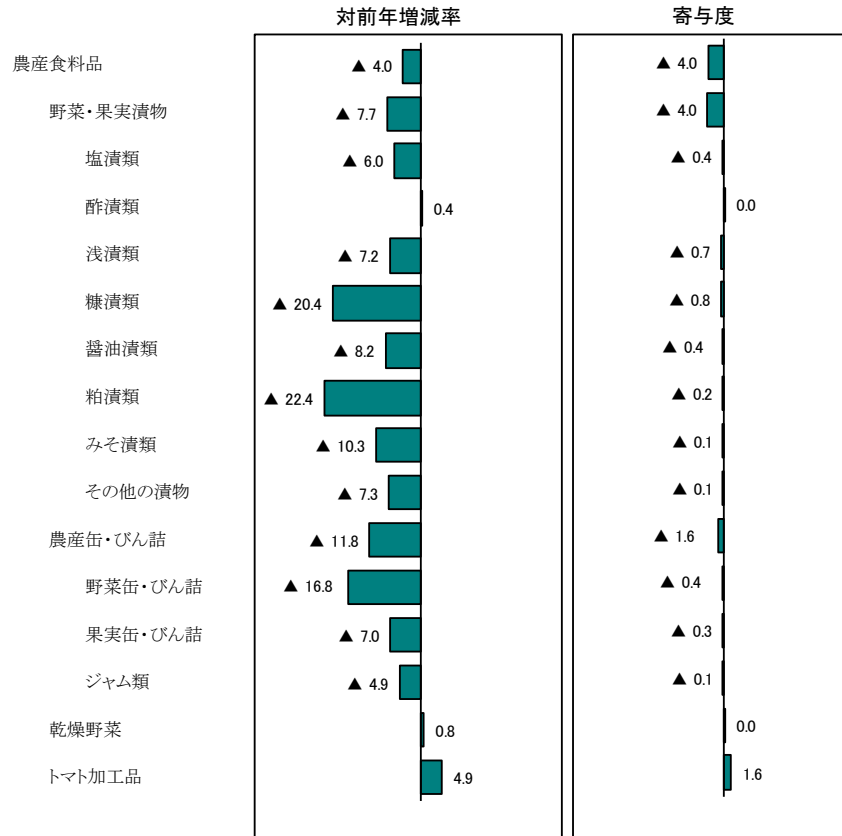


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

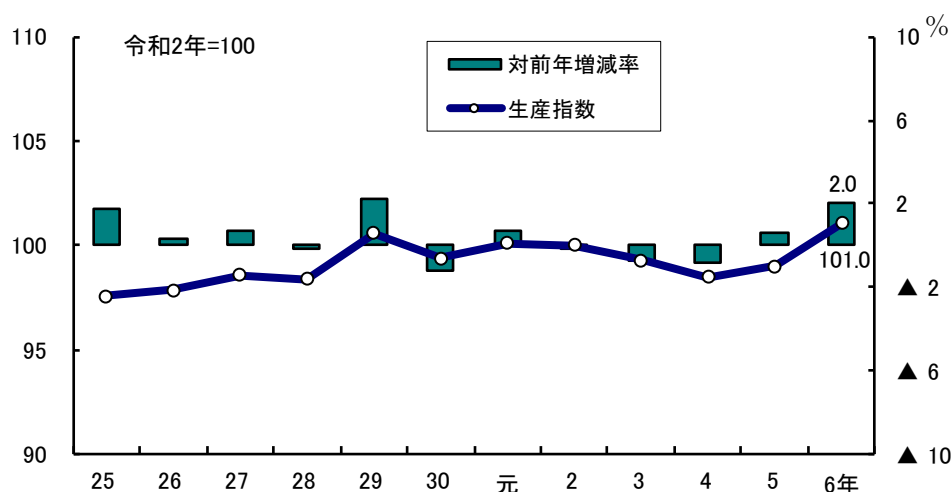
品目	年次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
農産食料品	368.2	100.7	101.1	97.8	93.8	0.7	0.3	▲ 3.3	▲ 4.0	▲ 4.0
野菜・果実漬物	183.3	105.1	105.6	103.2	95.2	5.1	0.5	▲ 2.3	▲ 7.7	▲ 4.0
塩漬類	25.8	98.6	97.4	95.9	90.1	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 6.0	▲ 0.4
酢漬類	25.0	102.8	113.2	105.7	106.0	2.8	10.1	▲ 6.7	0.4	0.0
浅漬類	33.9	102.7	107.0	105.3	97.8	2.7	4.2	▲ 1.5	▲ 7.2	▲ 0.7
糠漬類	10.8	113.1	125.8	126.9	101.0	13.1	11.2	0.8	▲ 20.4	▲ 0.8
醤油漬類	78.8	107.8	101.9	100.2	92.0	7.8	▲ 5.4	▲ 1.7	▲ 8.2	▲ 0.4
粕漬類	3.9	103.0	105.9	101.5	78.7	3.0	2.8	▲ 4.2	▲ 22.4	▲ 0.2
みそ漬類	2.3	109.8	101.7	96.3	86.3	9.8	▲ 7.4	▲ 5.3	▲ 10.3	▲ 0.1
その他の漬物	2.8	105.8	125.9	124.6	115.6	5.8	19.0	▲ 1.0	▲ 7.3	▲ 0.1
農産缶・びん詰	54.4	96.8	94.6	88.8	78.4	▲ 3.2	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 11.8	▲ 1.6
野菜缶・びん詰	28.3	97.9	93.0	88.0	73.2	▲ 2.1	▲ 5.1	▲ 5.3	▲ 16.8	▲ 0.4
果実缶・びん詰	19.6	94.6	95.7	88.3	82.2	▲ 5.4	1.2	▲ 7.8	▲ 7.0	▲ 0.3
ジャム類	6.4	98.6	98.3	93.8	89.2	▲ 1.4	▲ 0.3	▲ 4.6	▲ 4.9	▲ 0.1
乾燥野菜	6.6	100.0	100.0	99.3	100.1	▲ 0.0	0.0	▲ 0.7	0.8	0.0
トマト加工品	123.9	96.1	97.2	93.6	98.2	▲ 3.9	1.2	▲ 3.7	4.9	1.6

4 製穀粉・同加工品

令和6年の製穀粉・同加工品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は101.0で、対前年比2.0%とわずかに上昇した（図2-13）。

対前年比を品目別にみると、製粉・穀粉はやや上昇し、パンはわずかに上昇した。めん類は前年並みとなった。また、パン粉はわずかに上昇した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、製粉・穀粉、パン及びめん類がプラスであった（図2-14、表2-7）。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製粉・穀粉はやや上昇

製粉・穀粉の生産量は44万8千トンで、生産指数は対前年比5.3%とやや上昇した。プレミックスは同1.2%でわずかな上昇に留まったが、米穀粉が5.9%とやや上昇した。

めん類は前年並み

めん類の小麦粉使用量は148万7千トンで、生産指数は対前年比0.2%と前年並みとなった。内訳についてみると、生めん類の小麦粉使用量は76万7千トンで、生産指数は対前年比▲1.8%とわずかに低下した。乾めん類は18万7千トンで、生産指数は対前年比3.9%とやや上昇した。また、即席めん類は36万5千トンで、生産指数は対前年比▲0.8%と前年並みとなった。マカロニ類は16万9千トンで、生産指数は対前年比4.4%とやや上昇した。

パンはわずかに上昇

パンの小麦粉使用量は119万9千トンで、生産指数は対前年比1.6%とわずかに上昇した。内訳についてみると、食パンの小麦粉使用量は54万3千トンで、生産指数は対前年比1.1%とわずかに上昇、菓子パンは39万6千トンで、生産指数は対前年比0.5%と前年並みとなった。学給パンは2万3千トンで、生産指数は対前年比▲0.3%と前年並みとなった。一方、その他パンは23万8千トンで、生産指数は対前年比3.5%とやや上昇した。

図 2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

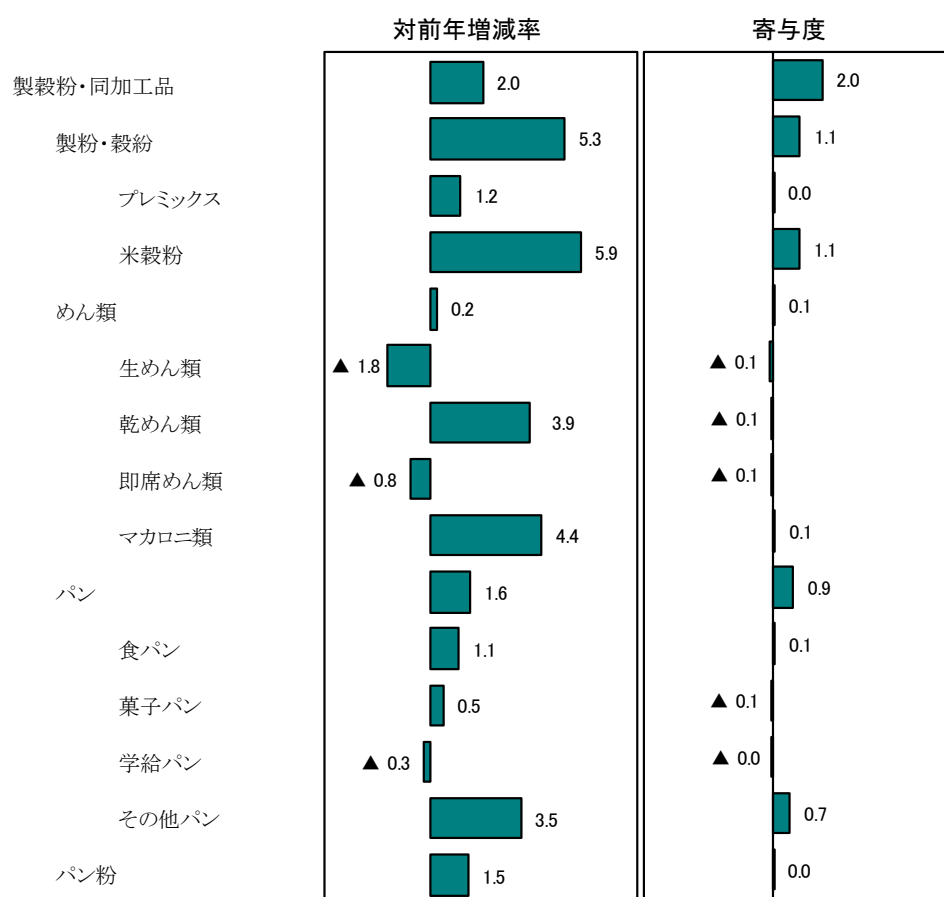


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

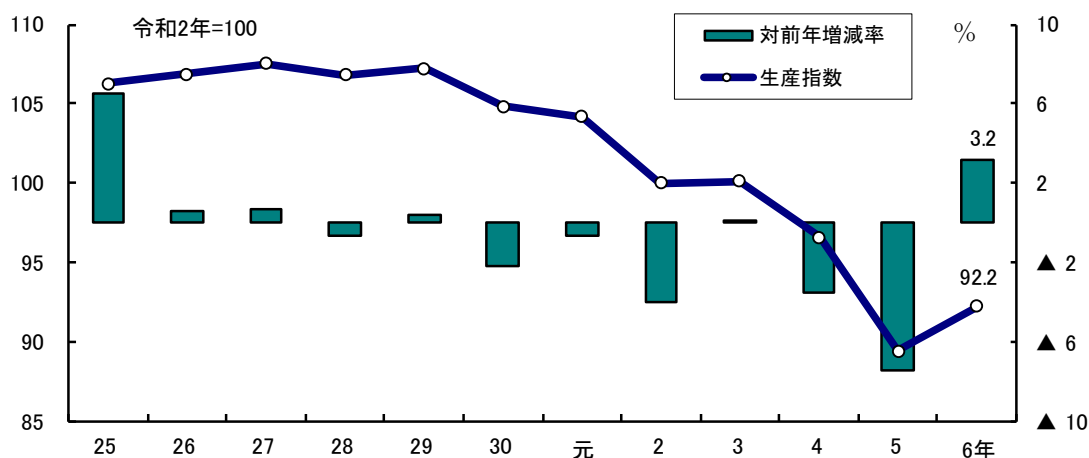
品 目	年 次	ウェイト (令和2年)	指数（令和2年＝100）				対前年増減率（％）				寄与度 6年/5年
			3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
製穀粉・同加工品		2,348.5	99.3	98.5	99.0	101.0	▲ 0.7	▲ 0.8	0.6	2.0	2.0
製粉・穀粉		476.6	94.2	101.0	104.7	110.2	▲ 5.8	7.2	3.7	5.3	1.1
プレミックス		71.4	99.2	97.8	94.6	95.7	▲ 0.8	▲ 1.4	▲ 3.3	1.2	0.0
米穀粉		405.2	93.3	101.5	106.5	112.8	▲ 6.7	8.8	4.9	5.9	1.1
めん類		572.0	98.1	96.5	94.9	95.1	▲ 1.9	▲ 1.6	▲ 1.7	0.2	0.1
生めん類		159.3	102.6	102.4	105.4	103.6	2.6	▲ 0.2	3.0	▲ 1.8	▲ 0.1
乾めん類		113.6	96.9	93.0	91.5	95.1	▲ 3.1	▲ 4.1	▲ 1.6	3.9	▲ 0.1
即席めん類		250.0	96.4	94.6	89.4	88.6	▲ 3.6	▲ 1.8	▲ 5.5	▲ 0.8	▲ 0.1
マカロニ類		49.0	94.8	95.2	96.7	100.9	▲ 5.2	0.4	1.6	4.4	0.1
パン		1,286.1	101.7	98.4	98.7	100.2	1.7	▲ 3.3	0.3	1.6	0.9
食パン		173.3	95.2	89.8	88.4	89.4	▲ 4.8	▲ 5.7	▲ 1.5	1.1	0.1
菓子パン		513.8	100.4	95.4	95.0	95.5	0.4	▲ 4.9	▲ 0.4	0.5	▲ 0.1
学給パン		156.3	115.5	109.3	109.4	109.1	15.5	▲ 5.4	0.1	▲ 0.3	▲ 0.0
その他パン		442.8	100.9	101.3	103.2	106.8	0.9	0.5	1.8	3.5	0.7
パン粉		13.8	102.2	101.7	102.7	104.2	2.2	▲ 0.5	1.0	1.5	0.0

5 食用油・同加工品

令和 6 年の食用油・同加工品の生産指数（令和 2 年=100、暫定値）は 92.2 で、対前年比 3.2%とやや上昇した。なお、近年の推移は、平成 25 年から平成 29 年にかけて横ばいであったが、平成 30 年以降令和 5 年まで低下傾向で推移していたが、6 年は上昇に転じた（図 2-15）。

対前年比を品目別にみると、植物油脂はわずかに上昇し、加工油脂はやや上昇した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、植物油脂及び加工油脂ともにプラスであった（図 2-16、表 2-8）。

図 2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂はわずかに上昇、加工油脂はやや上昇

植物油脂の生産量は 160 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 2.8%とわずかに上昇した。加工油脂の生産量は 57 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 3.4%とやや上昇した。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは 14 万トンで、生産指数は対前年比▲0.5%と前年並みとなった。一方、ショートニングは 17 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 2.8%とわずかに上昇した。

図 2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

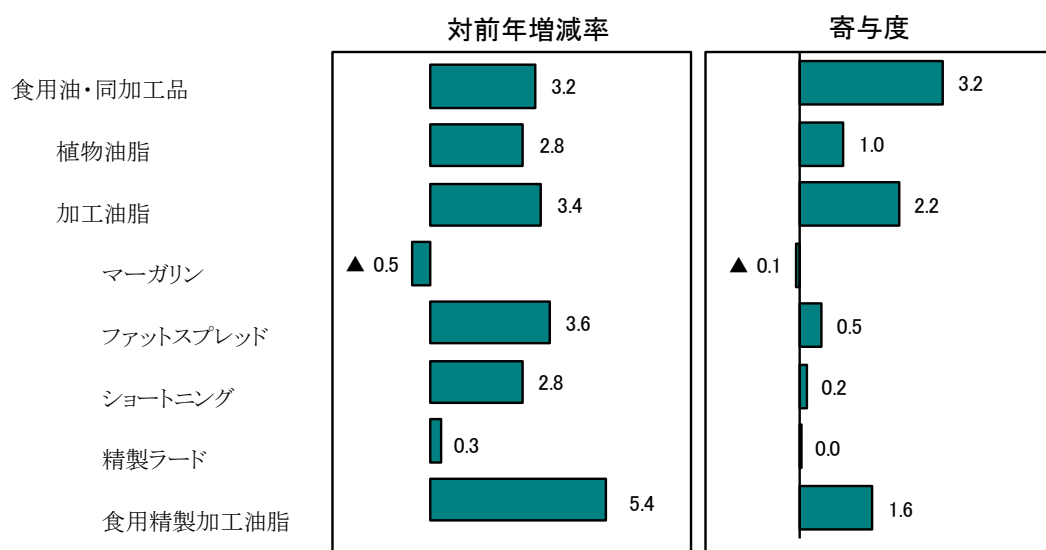


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

年次 品目	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
食用油・同加工品	379.2	100.1	96.5	89.4	92.2	0.1	▲ 3.5	▲ 7.4	3.2	3.2
植物油脂	122.4	102.7	100.1	95.7	98.4	2.7	▲ 2.6	▲ 4.4	2.8	1.0
加工油脂	256.9	98.9	94.9	86.4	89.3	▲ 1.1	▲ 4.0	▲ 9.0	3.4	2.2
マーガリン	47.5	96.2	91.8	99.2	98.7	▲ 3.8	▲ 4.6	8.0	▲ 0.5	▲ 0.1
ファットスプレッド	66.7	96.2	91.7	68.9	71.5	▲ 3.8	▲ 4.6	▲ 24.8	3.6	0.5
ショートニング	21.6	103.8	87.5	84.4	86.7	3.8	▲ 15.7	▲ 3.6	2.8	0.2
精製ラード	7.3	94.7	105.9	99.4	99.7	▲ 5.3	11.8	▲ 6.2	0.3	0.0
食用精製加工油脂	113.7	100.8	98.7	90.8	95.7	0.8	▲ 2.1	▲ 8.0	5.4	1.6

6 砂糖

令和 6 年の砂糖の生産指数（令和 2 年=100、一部推定を含む暫定値）は 99.8 で、対前年比 ▲2.7%とわずかに低下した。近年は低下傾向で推移していたが、2 年は上昇に転じたが 5 年以降は再び減少傾向で推移している（図 2-17）。

対前年比を品目別にみると、液糖はわずかに上昇した。一方、中双がかなり大きく低下し、白双、中白及び三温はかなりの程度低下し、上白はやや低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、液糖のみプラスであり、グラニュー糖、白双、中双、上白及び三温はマイナスであった（図 2-18、表 2-9）。

図 2-17 砂糖の生産指数の推移

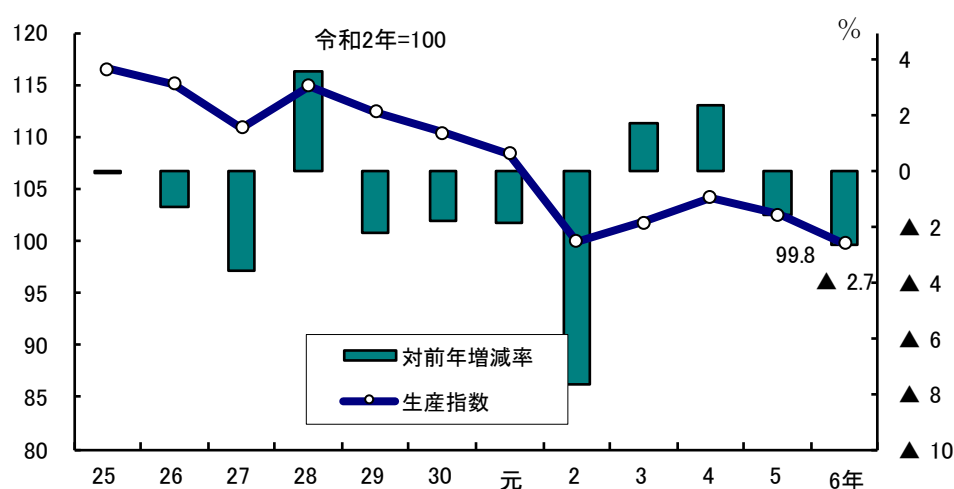


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

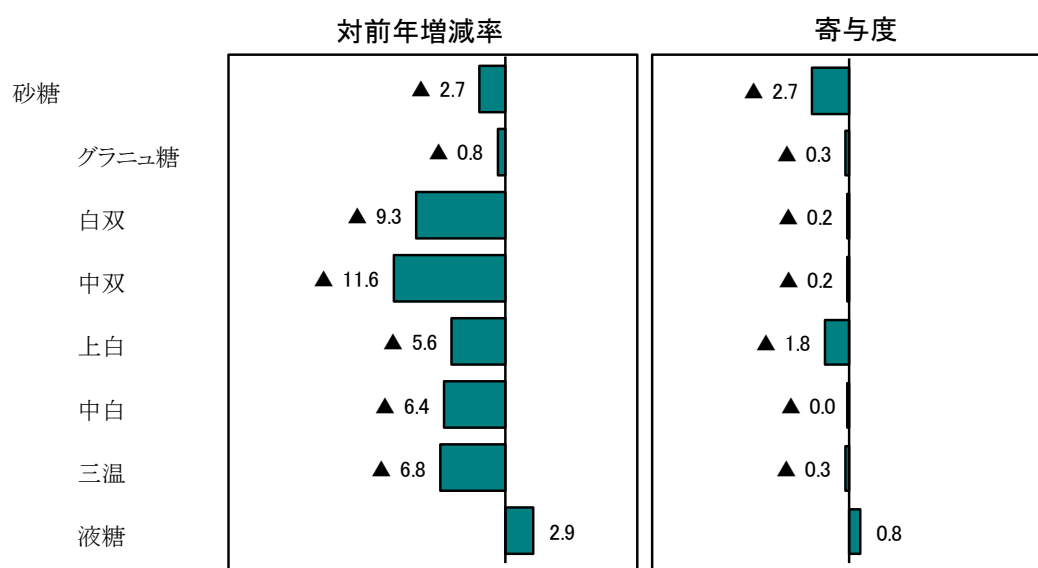


表 2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

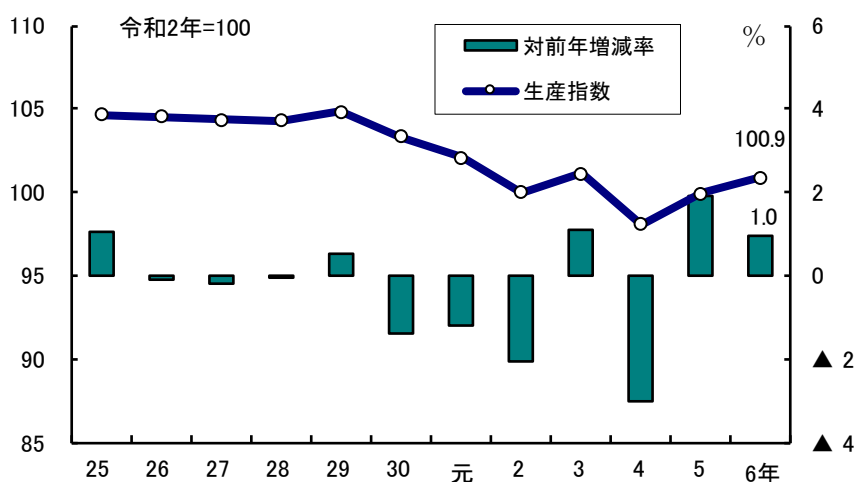
年 次 品 目	指数（令和2年＝100）				対前年増減率（％）				寄与度
	3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	6年/5年
砂糖	101.8	104.2	102.5	99.8	1.8	2.4	▲ 1.6	▲ 2.7	▲ 2.7
グラニュー糖	99.5	104.2	105.8	104.9	▲ 0.5	4.8	1.5	▲ 0.8	▲ 0.3
白双	104.2	114.8	111.5	101.1	4.2	10.1	▲ 2.9	▲ 9.3	▲ 0.2
中双	90.5	93.5	86.8	76.8	▲ 9.5	3.3	▲ 7.1	▲ 11.6	▲ 0.2
上白	100.5	100.7	97.7	92.3	0.5	0.2	▲ 3.0	▲ 5.6	▲ 1.8
中白	102.1	109.3	68.5	64.1	2.1	7.0	▲ 37.3	▲ 6.4	▲ 0.0
三温	103.3	99.6	89.8	83.7	3.3	▲ 3.5	▲ 9.8	▲ 6.8	▲ 0.3
液糖	105.9	109.2	107.8	110.9	5.9	3.1	▲ 1.3	2.9	0.8

7 調味料

令和 6 年の調味料の生産指数（令和 2 年=100、暫定値）は 100.9 で、対前年比 1.0%とわずかに上昇した。なお、近年の推移は、長らく低下傾向で推移していたのが、令和 4 年以降上昇傾向で推移している（図 2-19）。

対前年比を品目別にみると、味噌はわずかに低下し、しょうゆ等はやや低下した。また、マヨネーズはわずかに低下し、一方、ドレッシングはやや上昇した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、ドレッシングはプラスであり、味噌、しょうゆ等及びマヨネーズはマイナスであった（図 2-20、表 2-10）。

図 2-19 調味料の生産指数の推移



味噌及びしょうゆ等はいずれも前年並み

味噌の生産量は 45 万 6 千トンで、生産指数は対前年比▲0.3%と前年並みとなった。

しょうゆ等の出荷量も 98 万 3 千 kl で、生産指数は対前年比▲0.3%と前年並みとなった。

マヨネーズ及びドレッシングはいずれもわずかに上昇

マヨネーズの生産量は 21 万 6 千トンで、生産指数は対前年比 1.5%とわずかに上昇した。また、ドレッシングの生産量も 18 万 7 千トンで、生産指数は対前年比 1.2%とわずかに上昇した。

図 2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

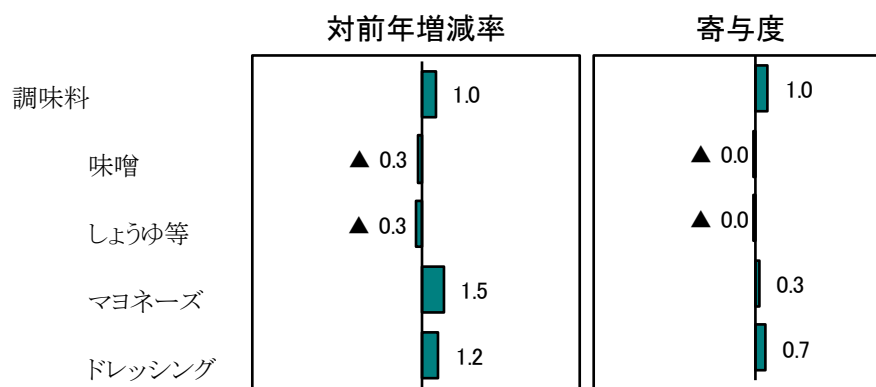
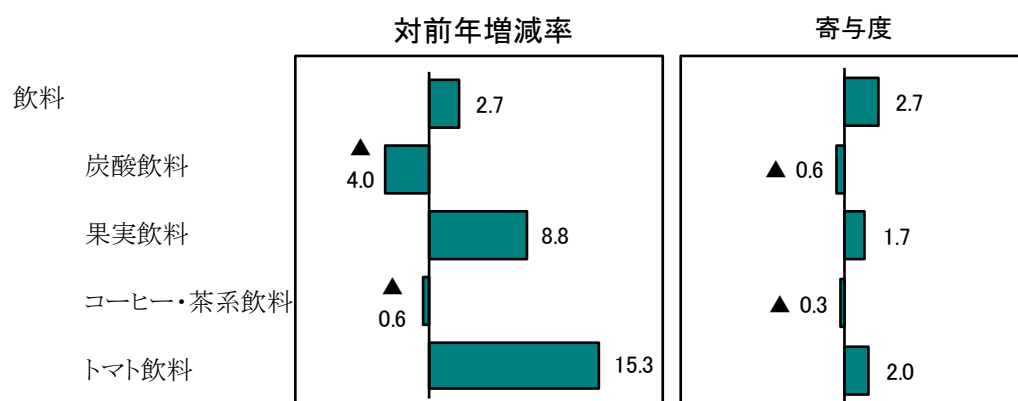


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

品 目	年 次 ウエイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
調味料	783.5	101.1	98.0	99.9	100.9	1.1	▲ 3.0	1.9	1.0	1.0
味噌	76.8	97.3	98.6	96.5	96.2	▲ 2.7	1.3	▲ 2.2	▲ 0.3	▲ 0.0
しょうゆ等	77.2	100.6	100.1	96.8	96.5	0.6	▲ 0.4	▲ 3.3	▲ 0.3	▲ 0.0
マヨネーズ	144.6	100.4	100.0	98.0	99.5	0.4	▲ 0.4	▲ 2.0	1.5	0.3
ドレッシング	484.9	102.0	97.1	101.5	102.7	2.0	▲ 4.8	4.6	1.2	0.7



8 飲料

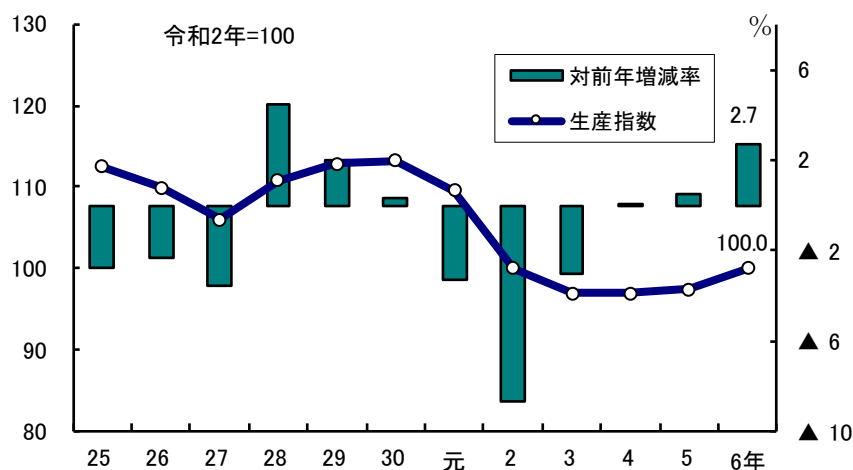
令和6年の飲料の生産指数（令和2年=100、暫定値）は100.0で、対前年比2.7%とわずかに上昇した。なお、令和3年以降横ばいで推移していたが、6年は上昇に転じている（図2-21）。

対前年比を品目別にみると、トマト飲料はかなり大きく上昇し、果実飲料もかなりの程度上昇した。一方、炭酸飲料はやや低下し、コーヒー・茶系飲料は前年並みとなった。

トマト飲料は、機能性のある飲料として年配層主体に需要拡大傾向にあるのに加え、近年生鮮野菜等の価格高騰の影響により、安定した価格のトマトジュースの消費が伸びていると見受けられる。

なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、果実飲料及びトマト飲料はプラスであったが、炭酸飲料及びコーヒー・茶系飲料はマイナスであった（図2-22、表2-11）。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料はやや低下、果実飲料はかなりの程度上昇

炭酸飲料の生産量は170万3千klで、生産指数は対前年比▲4.0%とやや低下した。果実飲料は生産量が61万6千klで、生産指数は対前年比8.8%とかなりの程度上昇した。

コーヒー・茶系飲料は前年並み

コーヒー・茶系飲料の生産量は953万klで、生産指数は対前年比▲0.6%と前年並みとなった。

トマト飲料はかなり大きく上昇

トマト飲料の生産量は12万9千klで、生産指数は対前年比15.3%とかなり大きく上昇した。

図 2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

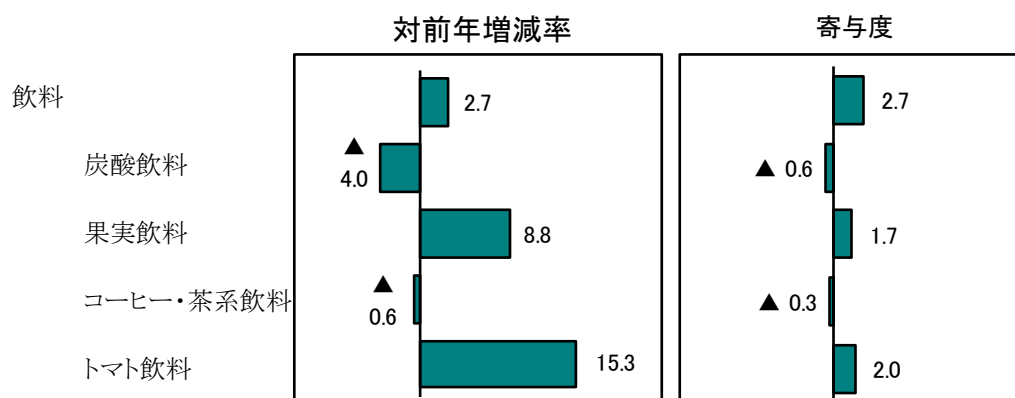


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

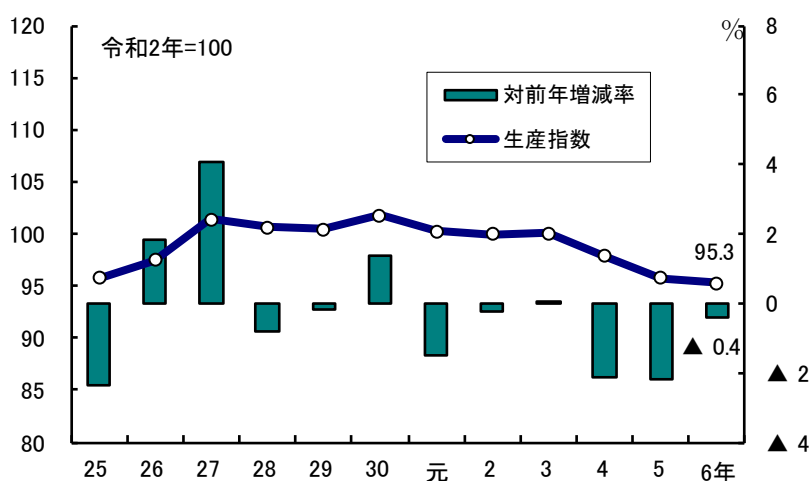
年 次 品 目	指数（令和2年＝100）				対前年増減率（％）				寄与度
	3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	6年/5年
飲料	96.9	97.0	97.4	100.0	▲ 3.1	0.1	0.5	2.7	2.7
炭酸飲料	91.5	88.6	87.9	84.4	▲ 8.5	▲ 3.1	▲ 0.8	▲ 4.0	▲ 0.6
果実飲料	92.7	93.6	92.6	100.8	▲ 7.3	0.9	▲ 1.0	8.8	1.7
コーヒー・茶系飲料	100.5	99.9	100.6	100.0	0.5	▲ 0.6	0.7	▲ 0.6	▲ 0.3
トマト飲料	97.4	103.2	106.8	123.2	▲ 2.6	6.0	3.5	15.3	2.0

9 菓子

令和6年の菓子の生産指数（令和2年=100、暫定値）は95.3で、対前年比▲0.4%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、平成27年以降横ばい傾向となっていたが、令和3年以降は減少傾向で推移している（図2-23）。

対前年比を品目別にみると、ビスケット及び米菓はいずれも対前年比で前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与については、ビスケット及び米菓ともにマイナスであった（図2-24、表2-12）。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケット及び米菓はいずれも前年並み

ビスケットの生産量は24万7千トンで、生産指数は対前年比▲0.4%と前年並みとなった。米菓の生産量は20万3千トンで、生産指数は対前年比▲0.5%と前年並みとなった。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

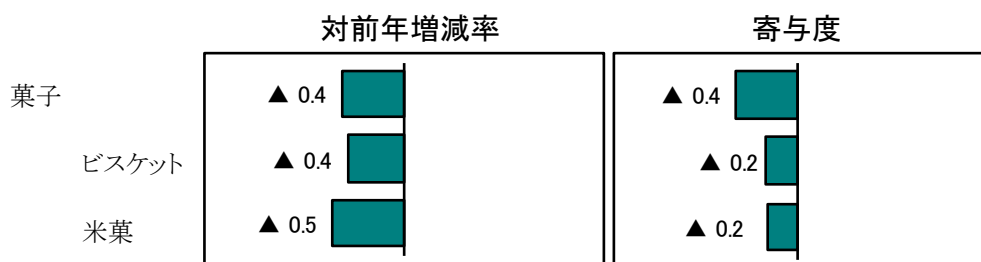


表1-12 菓子の品目別生産指数の推移

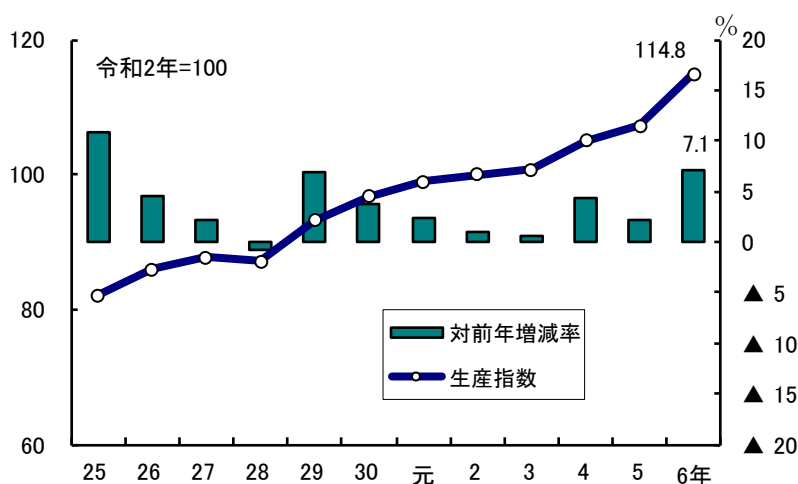
年次 品目	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
	3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	6年/5年
菓子	100.0	97.9	95.7	95.3	0.0	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 0.4	▲ 0.4
ビスケット	101.7	98.7	97.9	97.5	1.7	▲ 3.0	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 0.2
米菓	97.8	96.8	92.9	92.5	▲ 2.2	▲ 1.0	▲ 4.0	▲ 0.5	▲ 0.2

10 調理食品

令和6年の調理食品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は114.8で、対前年比7.1%とかなりの程度上昇した。なお、近年の推移は、平成23年の東日本大震災以降、備蓄需要の高まりや簡便化志向のニーズから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が続いてきている（図2-25）。

対前年比を品目別にみると、加工米飯はかなりの程度上昇した。また、調理缶・レトルトパウチもかなり大きく上昇した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、加工米飯及び調理缶・レトルトパウチのいずれもプラスであった（図2-26、表2-13）。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はかなりの程度上昇

加工米飯の生産量は47万2千トンで、生産指数は対前年比7.2%とかなりの程度上昇した。加工米飯のなかでは無菌包装米飯については、米価の高騰により主食としてのニーズが拡大したため生産量が増加したと見受けられる。また、冷凍米飯については令和4年以降生産量が増加傾向にあるが、その背景として、かつての冷凍食品より格段においしくなったことや、冷凍食品専門店が開店したり等消費者への訴求効果が高まったことが考えられる。

カレーはかなりの程度低下、その他の調理食品はかなり大きく上昇

調理缶・レトルトパウチの生産量は43万8千トンで、生産指数は対前年比6.0%とかなりの程度上昇した。内訳についてみると、カレーの生産量は14万2千トンで、生産指数は対前年比▲7.1%とかなりの程度低下した。一方、その他の調理食品の生産量は29万5千トンで、生産指数は対前年比13.8%とかなり大きく上昇した。

図 2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

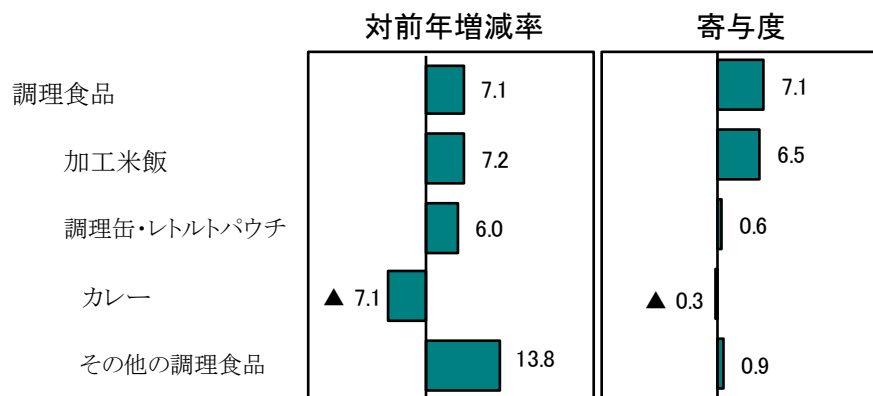


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

年 次 品 目	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
調理食品	1,166.4	100.7	105.0	107.2	114.8	0.7	4.3	2.1	7.1	7.1
加工米飯	1,035.3	101.1	106.0	108.7	116.6	1.1	4.9	2.6	7.2	6.5
調理缶・レトルトパウチ	131.1	97.6	97.0	95.3	101.1	▲ 2.4	▲ 0.6	▲ 1.7	6.0	0.6
カレー	50.9	96.9	95.5	91.1	84.6	▲ 3.1	▲ 1.5	▲ 4.6	▲ 7.1	▲ 0.3
その他の調理食品	80.2	98.0	97.9	98.0	111.5	▲ 2.0	▲ 0.0	0.0	13.8	0.9

11 酒類

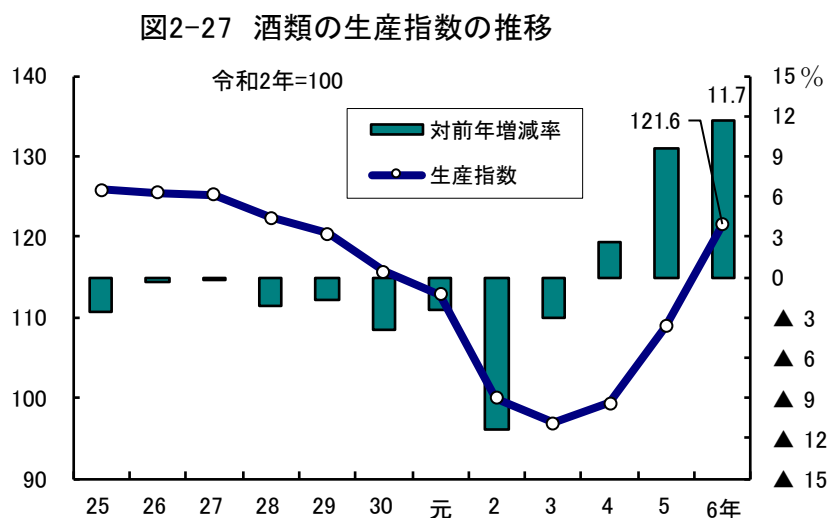
令和6年の酒類の生産指数（令和2年=100、一部推定を含む暫定値）は121.6で、対前年比11.7%とかなり大きく上昇した。特に発泡酒を含めた雑酒が大幅に上昇している（図2-27）。

これは令和5年10月以降の改正酒税法による酒類の新分類の影響によるものと見受けられる。

対前年比を品目別にみると、雑酒が対前年比で大幅に上昇し、スピリッツはかなりの程度上昇し、ウイスキーはやや上昇し、ビールはわずかに上昇した。一方、清酒及びリキュールが対前年比で大幅に低下し、合成清酒及び果実酒はかなりの程度低下し、焼酎及びブランデーがやや低下した。また、みりんは前年並みとなった。

なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、ビール、ウイスキー、スピリッツ及び雑酒はプラス、清酒、焼酎、果実酒及びリキュールはマイナスであった（図2-28、表2-14）。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビールはわずかに上昇

ビールの出荷量（1～11月）は211万5千klで、生産指数は対前年比1.7%とわずかに上昇した。

焼酎はやや低下、ウイスキーはやや上昇

焼酎の出荷量（1～11月）は55万7千klで、生産指数は対前年比▲5.7%とやや低下した。一方、ウイスキーについては出荷量（1～11月）が15万8千klで、生産指数は対前年比3.2%とやや上昇した。

スピリッツはかなりの程度上昇、リキュールは大幅に低下

スピリッツの出荷量（1～11月）は101万2千klで、生産指数は対前年比8.3%とかなりの程度上昇した。一方、リキュールの出荷量（1～11月）は76万8千klで、生産指数は対前年

比▲54.2%と大幅に低下した。

図 2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

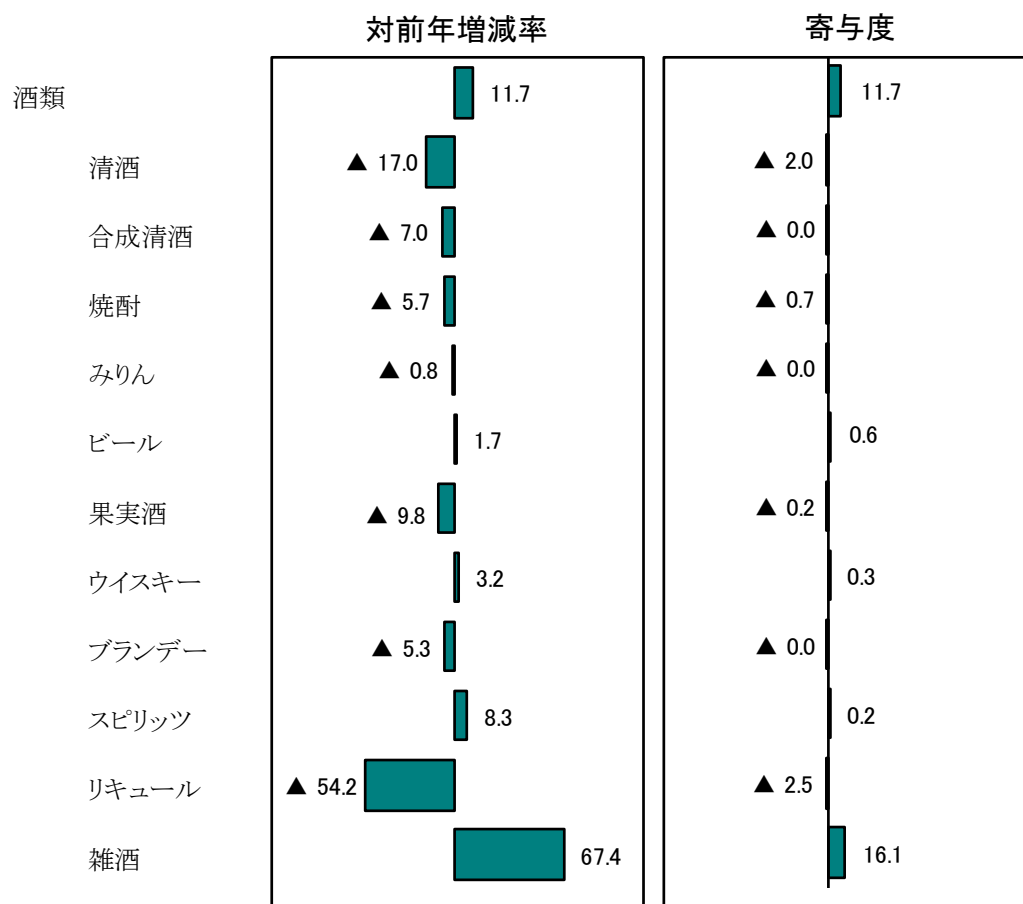


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品 目	年 次 (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		3年	4年	5年	6年	3年	4年	5年	6年	
酒類	1,553.9	96.9	99.3	108.9	121.6	▲ 3.1	2.5	9.6	11.7	11.7
清酒	195.0	96.6	88.8	101.1	84.0	▲ 3.4	▲ 8.1	13.9	▲ 17.0	▲ 2.0
合成清酒	3.5	91.7	94.7	91.3	84.9	▲ 8.3	3.3	▲ 3.6	▲ 7.0	▲ 0.0
焼酎	239.6	94.0	94.8	90.2	85.1	▲ 6.0	0.8	▲ 4.8	▲ 5.7	▲ 0.7
みりん	15.8	101.4	104.7	100.5	99.7	1.4	3.2	▲ 4.0	▲ 0.8	▲ 0.0
ビール	449.6	101.1	114.6	123.1	125.2	1.1	13.4	7.5	1.7	0.6
果実酒	33.2	93.7	86.6	87.7	79.2	▲ 6.3	▲ 7.7	1.3	▲ 9.8	▲ 0.2
ウイスキー	126.2	93.4	106.6	119.7	123.5	▲ 6.6	14.1	12.3	3.2	0.3
ブランデー	0.1	95.9	101.5	93.7	88.7	▲ 4.1	5.9	▲ 7.7	▲ 5.3	▲ 0.0
スピリッツ	38.1	111.7	110.5	114.6	124.0	11.7	▲ 1.1	3.7	8.3	0.2
リキュール	110.1	93.0	88.7	71.1	32.6	▲ 7.0	▲ 4.6	▲ 19.8	▲ 54.2	▲ 2.5
雑酒	342.7	94.6	89.1	117.7	197.1	▲ 5.4	▲ 5.9	32.2	67.4	16.1

(参考) 主要品目の生産量の推移 (平成25年～令和6年)

